



※一般質問の内容は議員自身が2月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和3年2月定例会を選択すると視聴できます。



すわべ たかとし  
**諏訪部 孝敏** 議員  
(至誠)

## 新型コロナウイルス感染症に伴う対応と対策について

**問** 新型コロナウイルス感染症対策と経済の両立について市長の考えを伺う。

**市長** 全国で初めて保健所のない自治体での独自のPCR検査場の設置や、無症状者のPCR検査の実施等、しっかりとブレーキを踏んでいるからこそ、感染防止対策と経済活動の両立ができていていると思っている。

## 障がい者施策の計画及び諸課題について

**問** 障がい者施策の新たな取組や計画が必要であると思うが、当市の考えについて伺う。

**部長** 障がい児、障がい者が住み慣れた身近な地域において、よりよい生活を送るために、それぞれのサービス提供機関の連携強化を図るとともに、利用者の多様化したニーズに対応する

ため、事業所の提供するサービスの質の向上を図ることが必要であると思われる。また、計画相談支援においては、障がい児、障がい者の方の福祉サービス利用の需要増加に計画の対応が追いついていない状況も課題である。

## 南部地域の通勤渋滞の解消及び市内の事故の多い道路の改良全般について

**問** 富士・富士川・山梨方面からの通勤者が南部地域を通過して各工業団地及び商業施設や事業所へ通勤している。その際、発生している通勤渋滞について当市の考えを伺う。

**部長** 交通渋滞の原因は、通勤のみならず、通学のための送迎やその他の目的の移動が複合的に重なり、結果的に渋滞が発生している。市はこれまでも、通勤による朝夕の渋滞等の状況を市内の企業に向けて説明してきたが、各企業の生産現場等の状況が異なるため、一様の対応はできていない。今般コロナ禍において、働き方を見直す取組の中で、テレワークや時差出勤等の推進を働きかけていきたいと考えている。



うえまつ けんいち  
**植松 健一** 議員  
(芙蓉)

## ゼロカーボンシティ実現に向けて

**問** 官民協働の下、市民の意識の醸成が必要不可欠と感じるがどのように考えるか。

**部長** ゼロカーボンシティの実現は市域全体に関わるものであり、市民や事業者がともに取り組む必要がある。周知広報活動を通じて市民により一層の理解と協力を促し、脱炭素社会の実現に向けて「オール富士宮」で取り組む機運の醸成を図っていきたい。

**市長** 市民を先導する意味で市が率先して事業を進めていくことは大事である。まずは市が一つの固まりになってプロジェクトチーム等をつくって進めていかないと、2050年までに達成できるものではないと認識している。市が積極的にリーダーシップを取って進めていくことが必要だと考え、市も頑張っていきたい。

**問** 今後公用車の電動化についてどのように考えているか。

**部長** 現在、市では電気自動車2台、ハイブリッド車8台、うちPHV車2台を保有している。車両交換時期に合わせて導入を進めていきたい。

**問** 市がゼロカーボンに本気で取り組んでいる姿勢を示す意味で低公害車にペイントをして積極的に市民にアピールしてみてもどうか。

**市長** ゼロカーボンシティを宣言したからには、実現のため前向きに進めていくということをPRするのも大事である。保有しているガソリン車であってもPRに使って構わないと思う。

## 富士宮市の顔について

**問** 富士宮駅北口前広場のペDESTリアンデッキの活用を提案するがいかがか。

**副市長** デッキ上の看板は利用者が迷わないようにという意味でつけてきたのが現実です。令和3年度からデッキ下のロータリーも含めて見直しを行なう計画であるので、貴重な意見として反映していきたい。